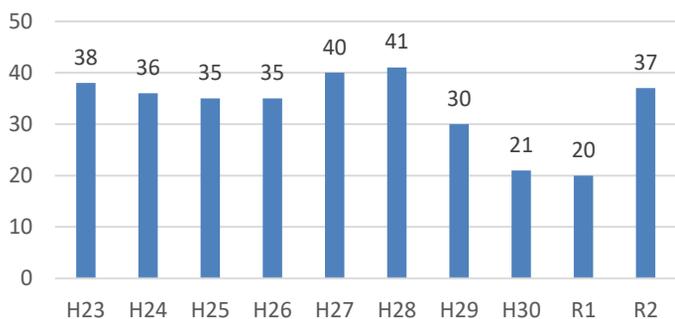


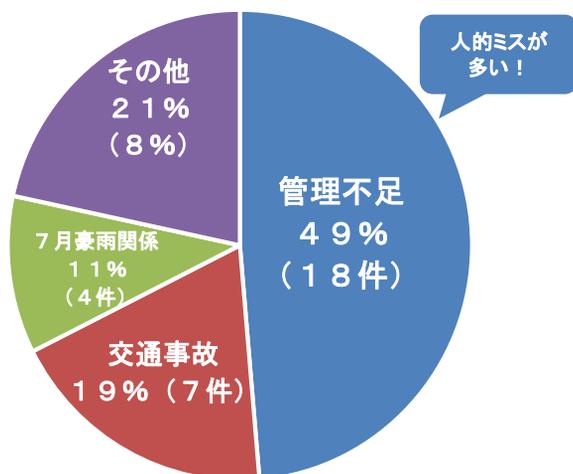
油流出事故を防止しましょう！

事業者や農業者の貯油タンクから油が流出する事故が毎年発生しています。その原因の多くは管理不備や操作ミスといった人的ミスです。ひとたび、油が河川などに流出すると、上水道や地下水、農業、漁業等に大きな影響を及ぼすおそれがあります。

油の漏洩事故件数
(環境保全課把握分)



令和2年度の油流出事故の分類 (環境保全課調べ)



特集 令和2年7月豪雨による油漏洩事故

事例 ビニールハウスの暖房に使用する重油のタンクが冠水したことによる重油漏洩事故
昨年7月の豪雨によりタンクが冠水し、最大1900Lの重油が流出。
応急の措置として、消防によりオイルフェンスを設置。
その後の対応として、タンク内の残油等を産業廃棄物業者に処理を委託。

* 令和2年3月に重油を満タンにしていることが調査の結果明らかとなった。

⇒対策 貯油タンクを使用する際には、①タンクを固定する、②防油堤を設置する、③暖房機を長期間使用しない場合はタンク内を空にするなど漏洩防止対策を講じましょう。(裏面チェックリスト)



(写真左) 7月7日午前、冠水した重油タンク (右) 7月8日午後、水が引いた状況

記録的大雨がここ数年頻発しています。
今後も大雨が予想されますので、漏洩防止のためには事前の対策が重要です。

油流出事故未然防止チェックリスト

貯油タンクを使用する際には、以下の項目を確認しましょう！

1 移動タンク（家庭用タンクやドラム缶を含む）

- 給油中に目を離していないか？（荷物の積み下ろし等で目を離した際にあふれ出る事故が多い）
- ふたはきちんと閉めているか？
- 転倒しないように安定した場所に置いているか？

2 地上タンク（農業ボイラー用重油タンク、漁業用燃油タンク、家庭用タンクを含む）

- タンクは固定しているか？（台風や増水時に倒れ、農作物に甚大な被害を与える恐れがある）
- 油を入れる前に、バルブ（元栓）が閉まっていることを確認したか？
- 油の漏洩により、入庫量と出庫量にズレが生じていないか？
- 腐食・老朽箇所を点検・修理しているか？
- 配管、配管接合部及び防護壁の劣化、ひび割れ及び油の漏洩痕はないか？
- 給油ホースが劣化していないか？また、交換を行っているか？
- 施設等に進入防止柵や施錠を行っているか（農業用を除く）？
- 防油堤を設置しているか？
- 暖房機を使用しない期間は、タンクの開閉栓を確実に閉めているか？
- 防油堤内部に貯まった雨水は、定期的に点検し排水しているか？
- 地下配管がある場合、どこを通っているか把握しているか？
- 耕起作業等で配管部分を損傷しないように十分注意しているか？

3 地下タンク（農業ボイラー用重油タンク、漁業用燃油タンクを含む）

- 法定点検はきちんと行われているか？
- 地下配管の漏洩点検は定期に行われているか？
- 油の漏洩により、入庫量と出庫量のズレが生じていないか？

4 油水分離槽

- 油分の定期回収は行われているか？
- 油分の処理は、産廃業者委託による処分等、適切に行われているか？

5 事故発生時の対応

- 油流出事故においては、発生初期の迅速な対応が拡大を防止するうえで重要であることを従業員等に周知しているか（通報等含む。）？
- 通報、応急措置など、初動体制の確認はとれているか？
- オイルマット、オイルフェンス等の準備は整っているか？
- 緊急連絡網を整備し、目立つところに掲示しているか？
- 日頃から緊急時の対処方法や管理について、従業員等に指導徹底しているか？

もし、油流出事故が発生したら・・・

速やかに、所管の**消防署**、**市役所(町村役場)**、**地域振興局(保健所)**に連絡してください。

また、流出先の確認や流出防止対策の実施、流出した油の回収等の**応急措置を実施**してください。

※万一の油漏洩時に備えて、各種(ガソリンスタンド向け、農業向け、事業者向け)保険への加入を御検討ください。